

手術・麻酔 説明同意書（腓体尾部切除術）

- 日程 21 年 8 月 28 日
- 診断 腓体尾部腫瘍
- 手術術式 腓体尾部切除および脾臓摘出術
- 麻酔 全身麻酔、硬膜外麻酔など
- 内容 腓体尾部に腫瘍があり、腓癌などの悪性腫瘍が疑われます。病変の部位・範囲・程度に応じた腓切除とリンパ節郭清を行います。また、腓尾部に近接する脾臓も合併摘出します。手術所見によっては、術式の変更や追加を行うこともあります。
- 治療を行なわなかった場合に予想される経過 悪性であれば、腫瘍が増大して腹痛や背部痛の症状が生じたり、他臓器へ転移したりして、致命的となる可能性があります。
- 手術に伴う危険性 手術に伴う主な合併症として、腓液瘻（ときに腹腔内出血、仮性脾嚢胞、膿瘍などの原因となります）、糖尿病、出血、免疫力低下、脾臓摘出による発熱などがあります。その他、感染（創、腹腔内、敗血症など全身性の感染）、心肺血管合併症（心不全、心筋梗塞、不整脈、肺炎、下肢静脈血栓、肺梗塞、脳梗塞など）、術後腸炎など他臓器の炎症、薬剤アレルギー、術後せん妄などの可能性もあります。また、術後腸閉塞や腹壁癒着ヘルニアなどが時に出現することもあります。この他の合併症も生じる可能性はあり得ます。
- 入院期間 推定される入院期間として、術後約 2～3 週間程度と予想されますが、合併症などが生じた場合は予定より長くなります。
- 代替法 手術以外の治療法として、抗癌剤治療や放射線治療があります。現時点では、切除可能な範囲と予想され、より効果的な手術治療が望ましいと考えます。
- 治療の同意撤回 この治療に対する同意は、手術までいつでも撤回できます。
- その他 術後看護・リハビリテーション・食事摂取方法などについては、看護師、理学療法士、管理栄養士から随時説明があります。脾臓摘出による免疫力低下に対する予防として、肺炎球菌ワクチンの投与が保険診療で受けられます。
- 追加事項

21 年 8 月 6 日

患者氏名

主治医 木村 光一



(署名の場合、捺印不要)

同席者 (職種:)

私は、本日担当医より上記手術・麻酔について十分な説明を受け、その内容について納得、理解いたしました。よって、それらの手術・麻酔を受けることに同意いたします。

公立学校共済組合 九州中央病院長 前原 喜彦 殿

21 年 8 月 25 日

本人氏名

(署名又は記名押印)

代理人氏名

(署名又は記名押印)

(代理人の場合は、本人との続柄)